

未来のために、  
大きな網を  
仕かけよう。



## 定置網漁の復活で、持続可能な“漁村づくり”を。山口県漁業協同組合（山口県・萩市“江崎の浜”）

■ **あの頃の活気をもう一度。**「信じられないでしょ。昔は港じゅう、漁船が停泊しきれないほど賑やかだった」そう語るのは、地元漁師（運営委員長）の山根さん。ここ“江崎の浜”は、かつては活気あふれる県内有数の漁村でした。しかし、豊かな漁場があるにも関わらず、漁の基盤であった定置網漁が漁具の破損により平成5年に操業を廃止。その影響で、地域の漁業の元気がなくなりはじめ、漁師の高齢化と後継ぎ不足が進み続けていました。「この海はいつだって宝の山。なんとか悪循環から脱却し、浜に活気を取り戻したい。若い人に住んでほしい。これが私の最後の仕事かも知れんなあと、思うとります」。漁協、行政、現役漁師やその家族たちが垣根を超えて何度も話し合い、出した結論——それが定置網漁の復活でした。

■ **正のスパイラルへ。**なぜ定置網漁なのか。山口県漁業協同組合の渡辺さんが説明してくれました。「網を固定して行う定置網漁は、言わば“待つ漁業”。時化（シケ）に強く、安定した漁獲量を確保できます。また、体力や熟練度を比較的要さず、高齢者にも漁業未経験者の入り口としても理想的。実績ある漁場で操業を再開して雇用を生み、この地域を元気にし、そして次世代の育成につなげたいと考えています」。ここで有効活用できるのが、増え続けていた漁村の空き家。行政のサポートも受けながら改修工事が進んでおり、地域外から新規就漁者を受け入れる体制も整いつつあります。「江崎の強みは、これまで蓄積してきた漁のノウハウと、住民たちの強い協力意識。新しい人に住んでもらうには、地域全体で迎え入れる体制が大事ですから」。

■ **江崎から、漁業全体に活気を。**総菜の加工販売を担う女性部の皆さんも「漁獲量が増えたら、値がつかない魚など、どんな雑魚も私たちが美味しく調理してみせます。道の駅や移動販売などで、沢山のの人に食べてもらいたい」と、頼もしく待ち構えています。漁協、行政、現役・新規の漁師、女性・高齢者たち——まさに地域一丸となって、持続可能な“漁村づくり”に取り組むこのプロジェクト。同じように悩んでいる全国の漁村へのモデルケースとなり、いつしか漁業全体に活気を与えられる、そんな希望にあふれています。



山根運営委員長(左) 渡辺経営企画室長(右)



一般社団法人  
農林水産業みらい基金

未来は、いつだって、現場から生まれる。私たち農林水産業みらい基金は、JA（農業協同組合）・JF（漁業協同組合）・JForest（森林組合）グループの一員である農林中央金庫によって設立されました。

詳しくは <http://www.miraikikin.org/>

